

# JUBF 安全対策委員講習会 報告書(2017 年度)

学連安全対策委員長

慶応義塾大学 3年 天野竜誠

## 1. 概要

2018年3月8日17時より、ハレルヤコミュニティチャーチ浜名湖チャペル1Fロビーをお借りし、例年通り安全対策講習会を実施した。

JWAよりウォーターリスクマネジメント協会理事野口貴史様、御前崎海上保安署より、佐々木様をはじめとする3名の方をお招きし、加えて学連に加盟する30の大学の中から、20名の安全対策委員が参加した。

はじめに、お越しくくださった海上保安庁の方より、海での安全対策について、ウインドサーフィンをする上で、よく起こる事故例などをもとに、30分程度お話していただいた。次に、安全対策委員が実際に体験したことのあるヒヤリハットを全員に共有し、その上で、私たちは安全対策委員として何ができるのか、という問いを5班に分かれて討議・発表した。また、その後、野口様にお借りしたマネキンとAED練習装置を

数個使い、BLS アセスメントの練習に加え、実際に心肺蘇生が必要な現場に居合わせた時、いかにして我々が指示者に回るか、という現場的な訓練を行った。

計3時間弱に渡る当講習会は、今後学連内の事故未然防止のために有意義な講習会となった。

## 2. 詳細

### ○御前崎海上保安署 佐々木様のお話

#### ・事故例について

事故例1) セーリング中にジョイントが外れてしまって、セールが岸に流されてしまった。

…適宜、警戒艇を出すなどして、リグが流れることによる事故を防ぐべきである

事故例2) 波待ちしているサーファーがサメに襲われた

…全国的にサメによる被害が増えている。警戒艇を出して周りに危

険がないかを確認する。周りに人がいない場合は監視員を置く。

・風下優先、スタボ優先を守る

…艇同士の衝突による事故被害が増えているので、ルールの大切さを今一度確認する。

・離岸流によって、流され続けて亡くなった方がいる

…横に泳いで離岸流から脱してから浜に帰る。浜に向かって垂直に泳いでいるようだと、なかなか離岸流から抜け出せず、泳いでいる間に力尽きてしまう。

・飲酒をしてウインドサーフィンをしない

…溺水者のうち、お酒に酔った状態で海に入ってしまった事故が多いので、当然のことだが、しっかり守る。

・小型船舶を運転するにあたって

1、発航前に燃料などの点検の実施

2、航行時、目配りを忘れない

3、救助支援者の確保

の3点を怠らないようにする。万が一何か起こった場合には、船舶免許を持っている人に責任が発生する。

・海上保安庁の緊急ダイヤル #118

○5班に分けた討議

問「事故の未然防止活動において、私たち安全対策委員としてできることは？」

#### ・ 1 班

ジョイント破損による事故が多いので、安全対策委員が予備ジョイントを毎回持参して出艇する。出艇前に、ジョイントの亀裂を確認する。誰か一人は携帯を持っていく。講習会で学んだ内容をチーム内にミーティングで共有する。

#### ・ 2 班

リグトラブルが起こる前に、リグが破損していないかを確認する。一人一人が安全対策委員としての危機感を持って行動する。上級生が責任を持って、出る出ないを判断する。

安全対策委員が各艇庫にいる大人を頼って、風の強弱やコンディションを判断してもらって、出艇するか否かを決める。大人とコミュニケーションをしっかりとれるような関係作りを安全対策委員として目指す。

### ・ 3班

チームで年に二回程度海上解体の練習をする。チーム全体で安全対策のミーティングを行う。そこで、過去にどんな事故が過去に起こっているのかを共有し、防止できそうな事故は防止に努める。キャプテン、委員が予備ジョイントを確保しておく。体調不良から起こる事故についてチームで話し合い、無理することの危険さを今一度把握しておく。津波ハザードマップについても確認をしておく。

### ・ 4班

大学単位でミーティングを行うなどして、学ぶ機会を作る。そこで、知識があまりない1年生にしっかり教える（津波ハザードマップ、実際に海上解体をみんなで行う、攻めたセッティングをしないように等）。

### ・ 5班

過去の事件事例をチーム内に共有する。何度も海に出ていると危機感が薄れるので、しばしば過去の事例を共有していくことで、事故防止する。

### ○JWA 野口様のお話

ジョイントの耐久年度を数え、記録しておくなどの解決策は有効なのではないか。

ハザードマップを確認しておくことは非常に重要である。どこに逃げるかだけでなく、その後の避難場所も確認しておくことで、食料がない、物資がないという災害後の事態を避けることができる。

大会先でも、津波ハザードマップを確認しておくこと。宿と避難地はどれくらい離れているのか、を安全対策委員が共有する。

普段の練習でも、大会先であっても、近くにいる経験豊富な大人に頼る。

有力な情報をもらうことで、最終的な判断をいかに適切なものにしていくかが大切である。

事故防止グッズについて。

レスキューシートはもっと強度なものにした方がいいのではないか。

船でレスキューする際に、曳航できるような太さ・長さを兼ね備えたものの。

ライフジャケットは、引っ張るとエアーが入るタイプがある。

救急箱を持参し、中身を充実させておく。（アイシング、三角吊、ガーゼなど）

委員は有事の際に指示役に回れるように訓練しておく。必ず指示役になるぞという自信を持つ。



### 3. 総括

今年は、関東学連安全対策委員が事前に安全講習会を消防署で受講し、心肺蘇生の方法のレクチャーを受けてからの講習会となった。また、関西学連安全対策委員についても、当講習会後に、各消防署で安全講習会を受講し、より一層、水辺の事故防止についての正しい知識をつけていくことだろう。

そして、安全対策委員は、講習会に出るだけにとどまらず、このような場で得た知識をいかにみんなに広めていくかが、大切になると思う。3時間弱にも及ぶ当講習会であったせいか、熱心に討議に参加する委員もいれば、気だるそうに当講習会に参加する者もいた。自然を相手にするスポーツをするにあたって、安全対策委員のこれらの行動が非常に大切であり、大きな責任を要する係であることを、大きな事故が起こる前に、なんとかして学連全体に自覚してもらいたいものである。この重要性を知ってもらうことこそが、私、安全対策委員長の次一年間の課題だと思っている。